Ⅰ　実践

１　研究主題　　『人権教育の精神の涵養を目指す人権教育の推進』
－教育活動全体を通した児童生徒の人権感覚や人権意識の育成－

（１）主題設定の理由

各教科・領域，総合的な学習の時間など教育活動全体を通して，自分とは異なる立場の人を理解する学習を行ってきた。しかし，人権における課題は多く，全ての生徒が，相手の立場や考えを尊重し，自分のこととして考える態度や差別や偏見の不当性などを理解するまでになっているわけではない。

そこで，授業や講演会を通して知識を伝えると同時に，体験や活動を通して自分と立場の違う人を理解し，思いやりをもった生徒を育成できるように，この主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　委員会活動や地域行事への参加等を通して，ボランティア精神を育成する。
イ　道徳の授業を通して人権の意識を高める。
ウ　生徒会活動等を通して人間関係を深める。
エ　外部講師による講演会を通して，人権に関する情報や知識を得る。

２　実践内容

（１）毎年度継続して実施している活動

ア　あいさつ運動や「さわやかマナーアップ運動」

生活委員会の計画により年間を通して行い，委員会活動としてだけでなく，学級単位や部活動単位での運動を行った。また，２年生のＩＢＩ（いじめ撲滅委員会）が毎週火曜日に，さらに，３年生有志が１１月終盤から自主的に朝のあいさつ運動に取り組んだ。

イ　ピア・サポート研修講座の実施
ウ　道徳教育の充実

学年一斉の時間割編成，授業参観の実施（１２月）

エ　福祉委員会の呼びかけによる募金活動
オ　敬老会，福祉の集い等，地域行事への参加
カ　体育祭での敬老種目の実施（「坂中生からの贈りもの」）
キ　人権作文や標語への応募
ク　外部講師を招いての性教育講演会や情報モラル講演会の開催
ケ　文化祭における茨城朝鮮初中高級学校との交流

（２）ピア・サポート研修講座

スクールカウンセラーの先生を講師として，年に６回実施した。研修生は，研修講座で学んだことを活かして学級活動や学年集会でリーダーとなりエクササイズを行った。

（３）外部講師による講演会

ア　いのちの教育（性教育講演会）

７月１７日，「おおたしろクリニック」の太田代紀子先生を講師に招き，講演会を行った。３年生を対象として「性感染症についての理解と予防法」，「異性とのよい関わり方」について学んだ。

イ　ケータイ安全教室（情報モラル教室）

７月９日，ＫＤＤＩの社員の方を講師に招き，ラインやメール等の危険性について学んだ。

（４）異学年交流給食の実施

「異学年集団で会食することで，互いの交流を深めながら，本校の一員としての自覚を高め，集団の団結や親睦を図る」ことをねらいに，交流給食週間を設けて実施した。

（５）茨城朝鮮初中高級学校との交流

本校は，１０年ほど前から茨城朝鮮初中高級学校との交流を行っている。本年度も，互いの文化祭に招待し合い親睦を図ることができた。

（６）地域の行事への参加

＜福祉のつどいのようす＞

ア　敬老会

福祉委員会が中心となって生徒に呼びかけ，ボランティア参加者を募っている。吹奏楽部も，アトラクションに演奏で参加している。

イ　福祉のつどい

敬老会同様，福祉委員会が中心となって参加者を募っている。今年も３０人を超える生徒が参加した。それぞれのコーナーの担当者となり，積極的に活動した。

（７）ＩＢＩ（いじめ撲滅委員会）による活動

昨年度の１年生が結成したＩＢＩの活動が，本年度も積極的に行われた。その様子は，茨城県教育委員会のＨＰや朝日新聞社にも紹介された。生徒たちの思いを生かして組織化し，その活動も生徒主体に展開することによって，生徒の心に人権意識の高揚が見られることは，非常に喜ばしい。

ア　定例会

毎週水曜日の昼休みに定例会を開き，各学級の様子を報告し合い，問題点があればその解決に向けての方法を話し合っている。

イ　あいさつ運動

毎週火曜の朝，正門前であいさつ運動を行っている。「いじめゼロ！一人一人の心をクリーンにしよう！」と書かれたＩＢＩ手作りの横断幕を掲げてのあいさつ運動は，いじめの未然防止にも大いに役立っている。

ウ　思いやりの樹

身の回りで，うれしかったこと，感謝したこと等をカードに記入してもらい，ボックスに入れてもらうコーナーを設置した。ＩＢＩの担当者が，そのカードの内容を吟味し，紹介した方がいいと判断したものを「葉」の形をした用紙に写し，それを廊下に掲示した「思いやりの樹」に貼り付けていく。この活動により，生徒同士がお互いに支え合い思いやりをもって生活していく雰囲気を高めている。

エ　ＩＢＩフェスティバル

ＩＢＩと学年生徒会がタイアップして集会を開いた。企画から運営まで，３ヶ月ほどかけて入念に行った。全員で「いじめゼロ宣言」を行うなど，いじめを憎み撲滅させようという気持ちを確かめ合うよい機会となった。

＜いじめゼロ宣言＞

３　成果

○　毎年，継続して取り組んでいるあいさつ運動や，ピア・サポート研修，各講演会の開催，人権作文コンクールへの出品等を通して，思いやりの心が育ってきているのを実感する。１回だけ，１年だけというその場限りの指導ではなく，継続して行う事により指導が心深くに染み込んでいくということを，改めて実感することができた。

○　県内でも本校だけである茨城朝鮮初中高級学校との交流は，「外国人の人権を尊重しよう」という人権課題に取り組める絶好の機会である。茨城朝鮮初中高級学校の生徒の減少など，交流を継続していくのには課題もあるが，継続していけるように努めたい。

○　ＩＢＩの活動は，教員の支援によって生徒主体の活動を保障することにより，いじめを憎むムードやお互いを思いやる心が生徒間に醸成されてきているのを感じる。

○　福祉の集い等，地域行事への参加を通して，日頃の学校生活では味わうことができないお年寄りや小さな子供たちと触れ合うことで，お互いを思いやる心を育むきっかけとなっている。

Ⅱ　今後の課題

ＩＢＩの活動は，生徒自らが友達との関わりや生活を振り返ることにより，いじめ撲滅という初期の目的に迫るだけでなく，自分を律し，より質の高い生活を目指すことができる契機となっている。現在，この活動は１年生にも参加者がいるものの，２年生限定の活動になっているのが現状である。来年度は，このＩＢＩを設立した学年が最高学年となるのをよい機会に，この素晴らしい活動を全校的な規模で展開できるように努めたい。